

競技・運営上の確認事項

- 1 競技は、2026年度（公財）日本バレーボール協会6人制競技規則による。
リベロ・プレーヤーは試合ごとに2名まで登録することができる。
- 2 受付時刻は各チームの試合設定時刻の1時間前とする。
- 3 ベンチ及びフロアには有効に登録された監督、コーチ、マネージャー及び選手以外は入ることができない。ただし、プロトコール前は、当該校(チーム)の中学生の入場も認める。
- 4 監督、コーチ、マネージャーマークは左胸部につけ、監督、コーチは統一された服装でベンチに入ること。チームキャプテンは、胸の番号の下に規定のマークを付けること。また、身体へのマジック等での書き込みは禁止する。
- 5 設定時間より遅れた場合、前の試合が終了したら、10分間の合同練習（パス程度）後、プロトコールに入る。同じフロアの試合が終了している場合は自由にコートやネットを使って練習できる。
なお、当該チームの試合が連続する場合は、最大15分間（フルセットの場合は最大20分間）あけてプロトコールに入る。
- 6 試合開始の予定時刻を定めているが、第2試合以降は予定した時刻より遅れることがあっても早く開始されることはない。プロトコールはプログラム記載時刻の11分前とする。
- 7 公式練習は6分間とする。合同で公式練習を実施しない場合は、各チーム3分間とする。
- 8 試合開始、終了時のあいさつの後、ネット越しに握手をする。
- 9 2日間ともスコアラー、アシスタントスコアラーは和賀地区の生徒が行う。
ラインジャッジ（4名）、点示（2名）は以下の割当てで参加チームが行う。
1日目 第1試合は和賀地区の生徒、第2試合以降は前の試合の敗者チームが行う。
2日目 和賀地区の生徒が行う。

審判上の確認事項

- 1 本大会は、2026年度（公財）日本バレーボール協会（以下 JVA）6人制競技規則による。
リベロ・プレーヤーは試合ごとに2名まで登録することができる。
- 2 リベロの不法な交代は、JVAの取り扱いに準じる。
（リベロの不法な交代が発覚した時点で、遅延制裁や反則の対象となる。）
なお、リベロとの交代はサイドライン上ですれ違うように行うこと。
- 3 各セットの開始時にコート内で円陣を組む場合、そのタイミングはスターティングラインアップの確認前後どちらでも構わない。
ただし、人数は最大でもスターティングリベロを加えた7人までで速やかに行い、スターティングラインアップの確認や試合開始の準備をすること。
- 4 ゲーム中のワイピングは、原則としてコート内の選手が行う。
コート内の選手で対処しきれない場合に備えて、クイックモッパー（2名以内）を待機させることができる。
クイックモッパーは、控え選手または選手以外の部員から選出する。
 - ① 控え選手の場合は、ベンチに待機して責務を果たす。
 - ② 選手以外の部員の場合は、1人は記録席脇、もう1人はベンチとウォームアップエリアの中間で待機して責務を果たす。また、服装は選手と区別し、ボール拾い等、チームのサポートは一切行うことはできない。
- 5 ゲームキャプテンは、審判に対し判定について質問する権利を有するが、抗議をすることはできない。また、他の競技参加者は質問する権利を有していない。
- 6 スポーツマンとしてふさわしくない行為はしないこと。
相手チームに向かってのガッツポーズやラインジャッジの判定に対する抗議等は「軽度の不法な行為」として扱い、制裁の対象となる。
「軽度の不法な行為」は、ステージ1（口頭警告）→ステージ2（イエローカードによる警告）のとおり、段階的に警告が与えられる。
- 7 選手交代（サブスティチューション）の時は、セカンドレフェリーやスコアラーが確認できるようにナンバーカードを高く掲げて要求すること。
- 8 いかなる場合でも、試合を遅らせることのないように注意する。
下記①～③の行為は、遅延制裁の対象となる。
 - ① 正規の試合中断（タイムアウト・選手交代）の要求後の取り消し
 - ② タイムアウト終了後、コートへの戻りが遅い等、試合再開を遅らせる行為
 - ③ ラリー終了後、サービス許可までのラリー再開を遅らせる行為
- 9 各コートには、ウォームアップエリアを設ける。ただし、エリア内でのボールの使用は禁止する。
- 10 セット間は、試合中のチームのみフリーゾーンでのボール使用を認める。ただし、隣接コートの試合の妨げにならないように注意し、パス程度とする。
- 11 タイムアウトの要求は、オフィシャルハンドシグナルを明確に示すこと。
- 12 監督は、試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながらも歩きながらも指示を出すことができる。ただし、ラインジャッジの判定の妨げにならないように注意すること。